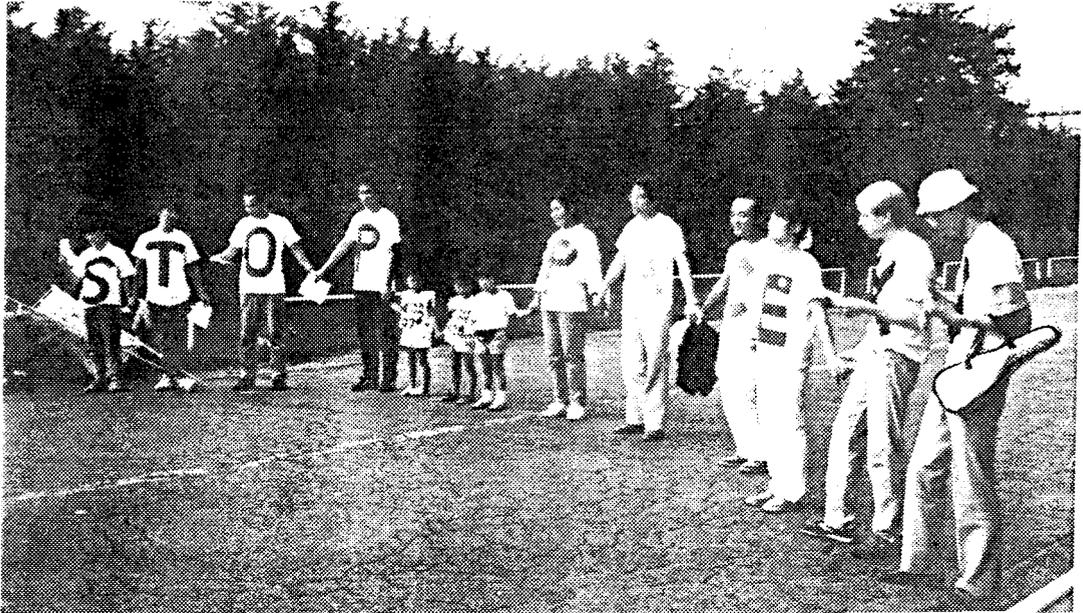


月刊反トマホーク通信

No. 48
89.10.20
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095 044(63)5101 FAX.044(63)9907
郵便振替 東京6-136148



10月1日、上瀬谷通信基地（横浜）のゲート前で上瀬谷基地はいらないウダの会がPACEX抗議行動。シュプレヒコールや握り拳のかわりに軍人たちに贈った花や折り鶴、平和の歌、ガンジーの最後の言葉。そして、フェンスの脇に撒いた矢車草の種。

PACEX各地レポート —基地の動きと抗議行動—

PACEXに関する米国防総省公式見解

アメリカ西海岸訪問記

非核自治体キャラバンとアンケート（神奈川）

トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口
2000円

あなたも仲間にも！（会費は本誌購読料を含みます）

【北海道】 十月四日苫小牧地区労働組合、社会党総支部が海兵隊揚陸艦サンバーナディノ入港抗議集会。約三百人が参加。原水協なども港近くで約七〇人で抗議行動。十月五日には札幌地区労働組合で使用する丘珠飛行場で千人規模の抗議集会。十五日には全道労働、社会党道本部などが千歳で、共産党系八団体も八日大演習場のある恵庭で反対集会を開いた。

行動抗議 各地で 9→10月



【上瀬谷】 上瀬谷基地は知らない信基地ゲート前で抗議行動(表紙)。十五日には基地を横切るピース・ハイキング。(十六ページへ)

【横田】 福生市民連合は九月十七日提出した。十月二十一日には三多摩労働組合、核千人委員会、護憲反安保、社会党、原水禁が共催で現地集会在持ち、PACEX反対と基地撤去を訴える。

【東京】 十月二十一日「89反戦反核代表市川誠」が軍拡阻止、PACEX反対を訴えて開かれる。

【三沢】 大衆的な抗議行動は行なわれていないが、平和委員会が連日基地を監視。平和委員会、社会党はそれぞれ抗議文を米軍、政府、自治体に提出。

十月二十日現在編集部が把握した情報です。

【上瀬谷】 外見上の変化はなく、いつものように静かな通信基地である。しかし、十月一日、抗議のため訪れた上瀬谷基地は知らないウドの会のメンバーに当直下士官は、「PACEXの

線をはりめぐらした中に可般式の通信機器。十月に入ると二、三、四日とたてつづけにトレーラーで物資の搬出。行き先は不明だがPACEX向けとの見方が有力である。

【横須賀】 九月二十九日、第七艦隊旗艦ブルーリッジが出港。九月三十日、トマホーク搭載の原子力巡洋艦ロングビーチが抜き打ち的に入港した。九月から十月にかけて原子力潜水艦があわただしく出入港。一月に八隻の原子力艦は最高記録である。原潜の無通告出港、停泊地(七ページへ)

韓国もPACEXに!

10月20日「朝日」

米韓合同の上陸演習開始

【ソウル十九日】小田川特派員 米軍の太平洋演習(PACEX 89)に韓国軍が今年初めて参加。十九日から韓国東部の浦項付近の海岸で米韓両国の海兵隊による上陸作戦が始まった。とぞ、ソウルの軍事筋が同日明らかにした。韓国軍はこれによって、米韓の環太平洋合同軍事演習(リムパック90)と合わせて二つの多国籍にまたがる軍事演習への参加に踏み出した。

核疑惑深まる秋

日本列島を PACEXが走る



「七十一年五月、空母ミッドウェーは核を搭載して横須賀に入港した」と元艦長ユージン・キャロル氏は証言(十月八日広島)した。政府のウソに目隠しされたまま、私たちはどこへ行こうとしているのだろうか、そして、今どこにいるのか。

太平洋演習・PACEXの最大の眼目である、日米三軍統合演習は、対ソ戦争の最前線・日本の姿を浮き彫りにした。きちんとした整理と分析は別の機会に譲り、各地の動きを駆け足で追った。 *関連記事十三ページ

北海道

今回もまた「主戦場」となった。北海道大演習場では米海兵隊と陸上自衛隊、計三二〇〇人を動員した実動演習、苫小牧沖では海上演習、千歳基地を拠点にした空の共同演習が

二二沢

九月二十九日以降離発着した軍用機の種数はいずれも国内の基地では過去最高を記録した。十月二日には離発着回数は確認されただけでも五八七回におよんだ(過去の最高は三五〇回)。基地周辺は終日騒音にさらされた。十月四日、十二日には航空自衛隊八戸基

横田

九月中旬から動きが活発化した。E3A AWACS、KNC135など電子戦用の航空機が定期的に発着。ミッドウェーの艦載機や岩国のハリアー、沖縄のF15などが三沢への途中飛来した。

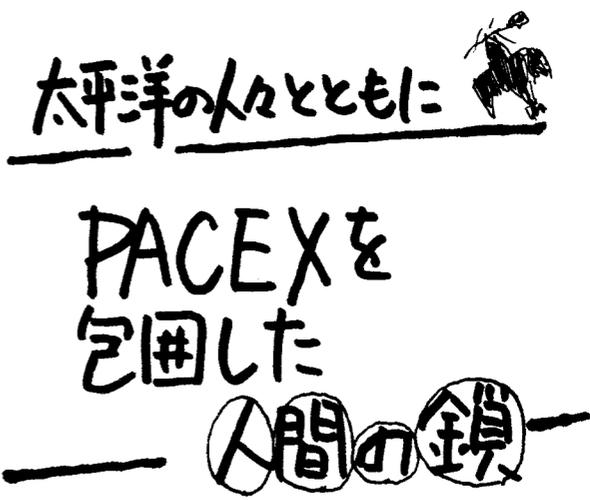
地に、五日には純民間空港である青森空港にF15、F16などが緊急着陸。故障、滑走路のトラブルなどと当局は説明した。しかし十月二日付「朝雲」は三沢基地への空襲や「ゲリラの侵入」に対処する訓練の模様を伝えている。緊急着陸も三沢を使えなくなった時を想定しての訓練の一環ではないか、と思われる。また、「日本平和委員会」は、原子力空母カールビンソンの艦載機の飛来を基地監視により確認した(十月十一日「赤旗」)。

厚木

ミッドウェー艦載機のがたは見られないが、十月七日ごろからF14、A7など艦載機以外の多種多数が集結し、発着を繰り返した。海上自衛隊のP3C対潜哨戒機の動きが九月末から活発化、硫黄島方面に向かった。

相模原(相模補給廠)

九月四日には今年四回目の通信訓練が陸軍によって始まった(十月中旬まで)。有刺鉄



「非核独立太平洋運動(NFIP)と一海軍の軍備撤廃を!太平洋運動(PCDS)」は、緊急行動を呼び掛ける手紙を発し(8月1日)、関係国の責任者にPACEXの中止を要請する手紙を書くように訴えた。その訴え文には、日本における政府への働きかけに役立つように、手紙のコピーをトマ喰い虫社に送るようにと書かれていた。これを受けて、私達のもとに多くの手紙が届いた。これまでの反トマ通信に、ニュージーランドのカトリック・オークランド、教区「

福音と正義と発展のための委員会」の手紙(ブッシュ大統領、山崎拓防衛庁長官、アキノ大統領、および盧泰愚大統領あて)が紹介されているが、その他にもたとえば次のような手紙が届いた。
アメリカン・フレンド・サービス・コミッティー(AFSC)の米西南地域事務所は、日本と韓国の関与に強い懸念を表明した。オーストラリアのユナイテッド・チャーチは、米ソ間の関係悪化を招く怖れを指摘し、抗議するとともに抗議文への回答を要求した。ニュージーランドのマオリ女性センターも、これまでこのような演習に参加したことのない太平洋の諸国の参加が伝えられていることに懸念を表明した。
シアトルの「世界安全保障研究所」の、チャリー・メコニス所長は、次のような手紙をブッシュ大統領に書いた。
「世界安全保障研究所の所長として、私は、あなたが今現在、軍縮交渉に参加していることに感謝しています。しかしながら、軍が同じ時刻に、北太平洋で過去最大の軍事演習PACEXを行なうことによつて、あなたの努力を台無しにしています。
戦艦二ニュージャージーとミズーリ、4隻の空母、その他の60隻の米軍艦、120隻の

日本軍艦、少なくとも300機の航空機、そしてもちろん、日本やカナダからのその他の兵力など、を用いることによつて、私達はソ連に対して正反対の信号を送っているのです。
『さんけい新聞』や9月13日付『シアトル・タイムズ』によれば、私達はこれらによつてソ連の沿岸を模擬攻撃しているのです。もし立場を変えて、ソ連が同じような演習をファンデフカ海峡(太平洋側の米・加国境にある)で行なっているとしたら、私達は、もはや交渉を続けることは出来ないに違いありません。
さらに私は、日本の参加の在り方が、アジアにおける専守防衛の立場を取り続けるという同国の伝統的な役割を大きく逸脱するものであることを指摘したいと思います。このような変化は、軍備競争を激化させるだけのものではありません。確かに、ヨーロッパや大西洋では、軍縮をしようとしているようでありませんが、太平洋ではそうではありません。太平洋がますます貿易の焦点になろうとしているなかで、これは不幸なことです。貿易が栄えるためには、戦争ではなくて平和が必要なのです。PACEXは、そのような環境を生み出すものではありません。演習は中止すべきであり、二度と繰り返してはなりません。
(十五ページへ)

アメリカ西海岸の旅

(I)

テーマとして定着した北太平洋の軍縮

梅林宏道

トマホークの配備を許すな!
全国運動運営コーディネーター

九月三日から二十五日までの約三週間、アメリカ西海岸を訪問した。きっかけは、シアトル大学で開催された「世界安全保障研究所主催の「太平洋コミュニティ90年代における共通の安全保障」に招待されたことだったが、その機会を生かして、かねてから念願のことがらを果たすために、その滞在期間を長くとることにしたものである。三週間の滞在期間は決して十分ではなかったが、それでも、大へん充実感を味わいながら帰国することができた。

シアトルを拠点に九日間、サンフランシスコを拠点に八日間、サンジエゴを拠点に四日間、それぞれ友人宅や大学の寮に滞在しながら、会議への参加、運動家や研究者との突っ込んだ話し合い、基地の見学、調査など、多

忙な毎日であった。
報告したいことが沢山あるが、とりあえず三回に分けて、次の三つのテーマについて報告したいと思う。

- I. 北太平洋の軍縮
- II. アメリカ西海岸の基地群
- III. 基地と環境、情報公開法

タイコンデロガ事件の国際性

シアトルからの招待文には「傘を忘れないように」とあった。どこに行っても水面を見ることが出来る風光明媚なシアトルをけなす唯一つの言葉は、晴れ間が少ないということだそうである。ところが私の滞在している間、

美しい晴れた日が続いた。「異常なことだ。これがシアトルだと思つたら大間違いだ」とC・メコニス(後述)に言われた。

ところが、あいにく?、この美しい日々最初の一週間は、会議づくめであった。最初の三日間、私が議長をしている「海の軍備撤廃を!太平洋運動」(PCDS)のインフォマル会議があつて、日本と韓国とアメリカ、カナダ西海岸の六名のメンバーがシアトル大学に集まった。続いて、四日間、前述した「太平洋コミュニティ」国際会議があつた。

その後、サンフランシスコでは二日間、グリーンピースの「海の非核化キャンペーン」の会議に参加する機会にも恵まれた。これらの会議に、私は日本の運動家として力説したい具体的な問題提起をもつてのぞん

手応えあり!

自治体「激励」 キャラバンと アンケート

金箱牧夫
神奈川を非核にする県民運動



神奈川県が「非核兵器県宣言」を採択して五年。宣言の趣旨とはうらはらに、私たちをめぐる「核づけ」の度合いはますます深まるばかりである。一年前にはトマホーク艦ファイフ・バンカーヒルの横須賀母港化を許してしまった。そして今年の五月に発覚したタイコンデロガの水爆搭載機水没事故。航海日誌に記された「二日後に横須賀入港」の明白な事実を前に、政府はいまだに「米国内に照会中」と逃げ続けている。これを認めることは、従来の政策の破綻を認めることに等しいからだ。しかし、だからこそ、認めさせなければならぬのだともいえる。自治体が宣言した「非

核」を実効化させ得るかどうかが、今あらためて問われているのである。
ところで、神奈川には、県のほか、二十五の非核宣言自治体がある。以前から思いつきとしてはあった、これらの市町を「激励」するツアーを組もうという話が、七月になってがぜん現実味を帯びたものとして浮上してきた。この企画は、神奈川を非核にする県民運動の会議に提案され、ファイフ、バンカーヒル母港化一周年の八月三十一日を最終日とする四日間に「がんばれ自治体・つくろう非核!ピースキャラバン神奈川」と銘打って行われることになったのだ。このキャラバ

ンでは、各自治体への会見と申し入れと並行して申し入れに対する実質的会見となるようなアンケートを事前に送っておき、会見時に回答を受け取るという方法をとった。また、問題の航海日誌のコピーをすべての自治体に手渡すこともキャラバンの重要な仕事だった。

新しい出会いをうんだ ピースキャラバン

キャラバンは、二十八日に横須賀を出発し、神奈川県をほぼ一周する形で三十一日に横浜に戻ってくるというコース。東は川崎から西は湯河原まで、四日間であらゆる神奈川県も広い。さいわい逗子で自然食品店をやっているUさんが、マイクロバスを貸してくれることになった。その名も「ピースリンク号」。Uさんは四日間の運転役も引き受けてくれた。破格に短い準備期間のなかで、網渡り的な努力でスケジュールの骨格はなんとか整ったものの、最大のネックは、平日の昼間の行動に一体何人が参加できるかということであった。直前になっても、Uさんと、「団長」という肩書きをもらった僕が全日程をまわるほかは、わずかに数えるほどの部分参加者が確認できただけだったのである。
ところがふたをあけてみると、当初の悲観

的な予想は見事に裏切られた。キャラバン隊は、もっともすくない場所でも七、八名、平均で十二、三人、四日間で部分参加者を含めると百十人に膨らんだ。その中には、横須賀から全コース参加した被爆者の会の根本さんや、京都から三日間参加の吉田さんの姿もあった。藤沢、大和での交流会も現地の人々の尽力で盛会だった。そのほか、秦野、南足柄など初めて訪ねた町で、短時間で別れるには余りにも惜しい人々との出会いがあった。これらの出会いは、従来の枠を越えたネットワークの広がりの可能性を示しているといえ

るだろう。
横須賀ではちょっと緊張きみに、ぎこちなくスタートしたキャラバンだったが、バスの中でリラククスしながら、市役所や町役場で合流する人がいるとそこでまたワツともりあがるという独特の気分がしだいにできあがってきた。二日目の宿泊地のキャンプ場に向かうバスの中では歌も飛び交い、しまいには自治体との会見の「しめ」に歌(「トマ喰いウナギ」)まで飛び出すようになった。このへんの楽しいことは書き始めるときりがないのだが、紙面の都合で省略。

なぜ、基地を抱えた自治体だけが...

自治体との会見には次のような「申し入れ」をもとにのぞんだ。

- ① タイコンデロガ水没事故の真相究明に向けた努力をすること。
- ② (核疑惑に関して) 政府の説明では住民の不安は解消されないと表明すること。
- ③ 自治体としてできる具体的な施策を考へること

自治体の回答の特徴は次のようにまとめることができる。

- ① 非核宣言自治体のこれまでの施策は、モ

ニユメントの設置など一般的な啓蒙やヒロシマ・ナガサキ関連の催しが中心である。それらが無意味と言うわけではないが、今日の神奈川の核状況をどうとらえるかというもっともかんじんな認識が欠落している自治体も少なくない。特に東西、県北部の基地をかかえていない自治体でそういう傾向が強かったが、それだけに私たちの主張が新鮮な問題提起として受け止められたようだ。
② タイコンデロガの問題では、十四の自治体が政府に向けてなんらかの対応をとっている。これらの素早い対応は評価したいが、たとえば、独自に航海日誌を手に入れるなどの究明努力はまったくなされていない。そこで最終日の県との会見の中でこの点を指摘し、私たちが手渡した航海日誌のコピーを持って外務省に再度要請を行うことを確約させることができた。(その後、県が提出した航海日誌を外務省が受け取り拒否したとの報道があった)。
③ こうした問題を基地をかかえた自治体だけに背おわせせずに、すべての非核宣言を行っている自治体で自分の問題と考えてほしいと私たちは求めた。神奈川にも「非核宣言自治体連絡協議会」という組織があるのだが、どうも実質的には機能していない



「PACEX(太平洋演習)89」の要
 部分的演習がほぼ終了した。元々の演習
 は海洋での戦いを想定したものであったが、肝
 心の海軍の動きはいぜん秘密のベールに包ま
 れている。また米・日の海軍と韓国の海軍が
 どのように連動したかも現在のところ情報がない。
 しかしこれらの「報道管制」はもっぱら政
 治的配慮によるもので、PACEXの実施に
 よって日米韓の軍事同盟Ⅱ極東でのNATO
 化は大きく進んだと見るべきだろう。事実P
 ACEXがクライマックスに差しかかる直前の
 去る9月19日、韓国国防省は来年の「RIMP
 PAC(環太平洋合同演習)90」に韓国海軍
 が初参加すると発表した。

リムパックはハワイ沖で2年に一度行わ
 れる海軍演習で、米(第三艦隊が主催)、日
 のほかにオーストラリア、カナダなどの環太
 平洋諸国も加わり、対潜戦、対空戦、水上打
 撃戦、など海洋でのあらゆる戦闘形態が折り
 込まれている。演習期間は前回の「リムパッ
 ク88」では1ヶ月、敵味方にわかれての実戦
 的な対抗戦の形を取る。リムパックは毎回規
 模を拡大して実戦に近いものとなっているが、
 それにつれてその想定はますます秘密にされ
 てきている。ただ空母や戦艦を動員したこの
 大部隊が戦うべき相手は、ソ連太平洋艦隊で
 あり、その舞台は日本近海、オホーツク海で
 あることは秘密にしようもないだろう。

韓国がリムパックに参加することは、こ
 れまで朝鮮民主主義人民共和国を敵国として
 いた韓国軍が、日本と共に積極的に対ソ海軍
 戦の最前線を担う意志を明確にしたことにな
 る。これまで韓国政府は「米日韓三国軍事同
 盟を目指すのではないか、との内外の批判を
 考慮してリムパック参加を見送ってきた」
 (「毎日」(夕)9・20)。しかしPACEX
 に見られるように、極東同盟国を巻き込もう
 とする米「海洋戦略」の圧力と、これまでは
 「沿岸海軍」と見られていた韓国海軍のプレ

にゆうす すびりつと

第九回 韓国軍「リムパック90」参加へ — 突出する日米韓三国同盟 —

全国運動情報コーナー
 青木雅彦(京都府)

ステイジを高めたいという欲求が結び付い
 て、リムパック参加を通じ「太平洋沿岸国家
 との合同作戦能力向上と友邦国家間の軍事的
 つなかりを強化する」(李国防相)という方
 針転換となった。

12自治体が対応策

タイコンデロガ事故 市民団体が調査

非核平和都市宣言を行って
 いる県内二十六市町あてに
 非核平和施策など六項目から
 なるアンケート調査書を提出
 していた「神奈川を非核にす
 る県民運動」(田村清代表)
 は十二日、アンケート結果を
 まとめて発表した。

同運動は八月十二日にアン
 ケート用紙を各自治体を送
 付。二十八日から三十一日に
 かけて行った「ピース・キャ
 ラバン」中に回収した。質問
 ①「これまでもこれからの非
 核平和施策について②タイコ
 ンデロガ事故が発覚した際の
 対応③タイコンデロガ問題に
 より市民は核持ち込みを認識
 とみている。この見方をどう
 考えるか④「事前協議がない
 ので核持ち込みはない」とい
 う説明で住民の疑惑は解消で
 きるか⑤解消されてないこと考
 える場合の対応策は⑥本島長
 崎市長は「事前協議を待つま
 でもなく、政府は真実の解明
 感である」が藤沢市と藤野

町、横浜市など十三が「そ
 の他」十一が無回答だった。
 ④は「解消される」はゼロ。
 「解消されない」が県内五。
 「分からぬ」がその他。裏
 面が二十一だった。⑤は「裏
 付けを取って核持ち込みのな
 いことを明確にするよう望
 む」(県)、「非核三原則を
 順守するよう強く要請する」
 (川崎市)など様々だった。
 ⑥については「支持する」が
 川崎市など六、「支持しない」
 はなかった。「その他」「無
 回答」が二十だった。

「事前協議がないから核は持ち込まれてい
 ようであった。」
 ④「住民の不安」が「解消されている」と
 いう回答はゼロであった。逆に「解消され
 ていない」との立場を明確にしたのも県と
 逗子・藤沢・綾瀬・川崎の四市にとどまっ
 ている。住民アンケートを実施したいとい
 う市もあったが、いつまでも「わからない」
 としてすませているのは行政としては無責
 任であろう。断言してしまうが、いまや、
 「事前協議がないから核は持ち込まれてい
 ない」などという政府の虚構の説明など、
 おそらく言っている政府当局者自身も含め
 て誰も本気で信じてはいないのである。少
 なくとも「非核」をかかげる自治体なら、
 「政府の説明では納得できない」ことを声
 を大にして表明するべきなのだ。
 ⑤「長崎平和宣言」をアンケートの中に入
 れたのは、そこに盛り込まれた具体的提案
 を正面から受け止めてほしいと思ったから
 だ。

ともあれ、すべての非核宣言自治体をキャ
 ラバンがまわったのは初めてだし、アンケ
 ー結果が自治体の見解として大衆的に公表さ
 れるのもたぶん初めてのことである。具体的
 な成果は今すぐ目に見えないにしても、各自
 治体に与えたインパクトは決して小さいもの
 ではなかったと思う。ええいままよ、と飛び
 出したこのキャラバン、大いに手応えあり、
 とまとめておきたい。

自治体アンケート報告書
 ご希望の方は県民運動へ
 Tel 045(431)0431
 かんぽ100かん

反核ホット ライン だより

19

入港情報

- 9・9 横須賀に入港
- 9・21 パーミット(P級) 午前11時
- 9・29 クイーンフィッシュ(S級) 午後2時 横須賀に入港
- 9・30 クイーンフィッシュ(S級) 午前10時45分 横須賀を出港
- 10・2 パーミット(P級) 午前10時 横須賀を出港

(10・3)	ヘレナ(L級)	午前10時	横
(10・6)	ヘレナ(L級)	午前10時	横
*1989年10月20日現在各港への原子力艦の入港回数は、			
	横須賀	25回(うち原潜24回)	
	佐世保	2回(うち原潜2回)	
	ホワイトビーチ	3回(うち原潜3回)	
計		30回(うち原潜29回)	

原潜が無断出港

米原潜は、横須賀基地に無断で出港し、太平洋に出没している。これは、原潜の無断出港が、このため、原潜が入港する度に、通常の一日三回、四カ所で行なわれる放射能調査をするのと同時に、出港時は艦首、艦尾の

海水採取をするほか、出港時の24時間後の海底土採取分析を行っている。通常は出港後5〜10分間に行われる海水採取が、今回30分後になった。

また、10月3日、原潜ヘレナが、当初予定されていた十号パースの隣の十一号パースに入港。入港場所の変更などは、事前に通報するのがルールであったが、勝手に破られた。

ロングビーチ入港

原子力ミサイル巡洋艦ロングビーチが、9月30日に横須賀に入港した。これは、PACEXと連動する形で29日から始まった、米海軍と海上自衛隊の日米共同訓練に参加しているものとみられる。

ロングビーチは1961年に就役した世界初の原子力推進の洋上艦です。核トマホーク搭載艦で、入港は86年8月以来で、過去6回入港している。

原子力艦入港情報 テレホンサービス

プッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗号番号 **1071**

クロハ イレナイ

同盟国を演習に利用

おごれるアメリカ、まざまざ

アメリカ国防省のPACEXにたいする見解
1989年9月26日 W. M. マクドナルド情報公開・保安検査部長 アメリカ合衆国防次官補(広報担当事務所)



問い：PACEX89のもとでどのような演習が行なわれていますか。

答え：PACEX89は、個々のルーチンの訓練演習を集めたものになっています。その中のあるものは、(4軍のうち)1軍のみの演習であり、あるものは合同演習です。また、その中には、2国間演習もあれば、多国間演習もあります。つまり、一つあるいはそれ以上の同盟国ないしは友好国が参加します。PACEX89のもとでの演習名を具体的にあげることはしません。

問い：PACEX89には、ほかに(アメリカ以外に)どんな国が参加していますか。

答え：PACEX89は、基本的には、司令

海の軍備撤廃を太平洋運動(PCDS)の運営委員の一人ホブ・ホワイト氏(ニュージブラント)は、アメリカ情報公開法にもとづきPACEXに関する情報公開を請求したが、アメリカ国防省はこれを却下した。ホワイト氏の提訴に対して国防省が回答として出したのがこの文書である。国防省はここで、同演習が二国あるいは多国間の定期的な演習を集めたものであり、PACEXなる名前は、アメリカにとってのみ存在する。また、太平洋司令部の任務は「太平洋を通じて行われる攻撃からアメリカを防御すること」と述べている。つまり、シナリオ全体を知っているのはアメリカだけ。同盟国はアメリカを防御するための将棋のコマにすぎない、と超大国の傲慢さをさらけ出しているのである。

(編集部)

部レベルにおける計画、調整、評価の向上を目指すものとして、アメリカ太平洋司令部によって行なわれています。他の国はこの計画には、直接には関与していません。多くの場合、個々の演習のPACEXに対する関係は、その演習に参加しているアメリカ軍のみに及び、同盟国や友好国には及びません。その上、演習の性格を変えたり他の国の政策を侵害したりしない限り、どの国も2国間あるいは多国間演習の機会を、彼ら自身の軍隊や作戦計画に関連しているシステムをテストするのに利用することが出来ます。さらに、どの国がPACEX期間中に他の演習に参加しているかを論ずることは時期尚早です。いずれにしても、他国の参加の程度や性質に関する質問は、その政府自身に聴くのがよいと思います。

問：PACEX89の全参加人員数はいくらですか。

答：PACEX89を支える演習へのアメリカ軍の全参加人員は、約80,000人です。

問：PACEX89には、アメリカ海軍のどんな軍艦が参加しますか。

答：PACEX89を支えるために予定されている演習に参加する海軍力は、(いろいろな時期に)次のようなものを含みます。4個の異なる空母戦闘団、1個の戦艦戦闘団、2個の上陸即戦グループ(海兵隊遠征部隊を

全保障の利益や世界中の友邦や貿易国との相互協定によって、よく理解され、はつきりと定義されています。

アメリカ太平洋軍総司令部の使命は、アメリカ太平洋軍の安全を維持し、太平洋を通じて行なわれる攻撃からアメリカを防御することであり、太平洋、極東、南アジア、東南アジア、そしてインド洋において、アメリカ合衆国の政策や国家利益を支援し、発展させることにも、合衆国の軍事上の責任をはたすことです。この使命をはたすために、我々は、あらゆる形態の気候条件と地理条件を乗り越えて、広範囲の作戦を行ない持続する能力を維持する必要があります。これに必要な能力は低下しやすく、訓練なしには維持することは出来ません。したがって、さまざまな規模の演習を行なう必要性には、何の秘密もないのです。

問：演習にはアメリカのどんな飛行機が参加しますか。

答：アメリカ空軍：F-4, F-15, F-16, OA-10, E-3, C-5, C-141, C-130, KC-135, B-52。アメリカ海軍および海兵隊：A-7E, F/A-18, F-14A, A-6E, EA-6B, E-2C, P-3C, AV-8B, SH-3, CH-46, CH-53, AH-1, EA-3, C-130, SH-60, SH-2, C-2A, S-3A, C-9B, SH-3。アメリカ陸軍：AH-1, UH-1, CH-47, OH-58, UH-60。

大演習は、また、当該訓練チームや施設の有効性を最大にすることが出来ます。なぜならば、それらは与えられた時間に、他の場合よりもより多くの部隊に対応することになるからです。さらに、合同演習は、異なった軍の訓練支援部隊がそれぞれの軍の中では必ずしも得られないアイデアを交換したり、見方を導入したりすることを可能にします。

大演習は、また、部隊レベルでの訓練に当

問：PACEX89には、どんなアメリカ陸軍の部隊が参加していますか。

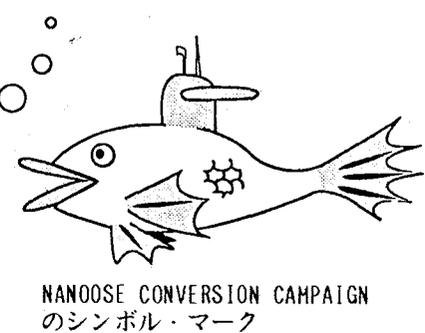
答：第6および第25歩兵師団(軽)所属の部隊と、アラスカとオハイオの国土防衛隊の一部が参加します。

問：演習には、どんなアメリカ空軍部隊が参加しますか。

答：第5、第7、第13という、太平洋に3つの空軍すべてが演習のどこかの部分に参加します。

各国首脳への手紙とは別に、カナダの大ビクトリア軍備撤廃グループは、10月28日に行なおうとしている彼らの海上行動への支援と連帯を訴えてきた。彼らは、カナダ海軍がPACEX参加のために出航したエスカイモルト港に舟を漕ぎだし、その日軍港を平和的に横切ろうとしている。

その他、各国の研究者たちは、情報公開法による調査活動や、政府に対する事実確認や、議会における質問など、精力的な努力をし、その成果が私達のもとに届けられた。



問：PACEX89に参加するアメリカ軍の所属基地はどこですか。

答：アメリカに基地をもつ部隊もいれば、海外に基地をもつ部隊もいます。



問：PACEX89の全体シナリオはどういうものですか。

答：演習シナリオの議論はしません。

問：PACEX89のような大規模演習をなぜ必要とするのですか。

答：たとえば、アメリカ空軍が海軍航空隊と合同演習をしたり、海兵隊が空軍と一緒に演習したり、他の軍を利用するために演習を結合させる機会を求めることは、財政的な意味があります。納税者は、国防への投資効果を上げることができ、現場部隊はより現実的な訓練ができ、部隊の高級参謀は、指揮、管制、兵たんの基本的な考えをテストすることが出来ます。通常の演習スケジュールは個々の部隊の訓練や即応力の向上をもたらしますが、司令部レベルの演習の機会が少ないのです。ある種の支援部隊に同じことが言えます。その機能の正確な分析が可能でかつ意味のあるものになるためには、一定量の

野戦活動が必要なのです。司令部や支援部隊をテストするために小さな演習を結合する演習スケジュールを立てることは、非常に意味のあることです。

問：このような大演習は、時間と金銭の面で、別個の無関係な演習よりもどのように投資効果を上げられるのですか。

答：大演習を成功裡に遂行するために要求される計画と調整は、司令部参謀の技量をテストし、人員や装備を効率的に運用するのによりよく貢献します。アメリカの(4軍の中の)相手の軍や同盟国や友好国の軍隊を提供することによって、我々は、利用可能な航海時間と飛行時間(直接予算によって決定されます)の制約のもとで達成できる訓練の量、質ともに最大にすることが出来ます。二つあるいはそれ以上の演習をつなげることによって、人員や装備を一旦所属基地に帰し別の時期に別の演習に派遣するのではなく、それらを継続使用することが可能になります。

我々は、常に日常ベースで積極的な演習計画を実行してきています。

我々の演習の必要性は、発表されている安

問：軍事行動と軍事力を削減しようとする最近のソ連のインシヤティブを考えたとき、このような演習は、国家の安全保障にとって逆効果であり挑発的なやり方ではありませんか。

答：いいえ。この種の演習は、太平洋戦域におけるアメリカの目的と任務にとって逆効果ではありません。まず第一に、ソ連は最近彼らの地域外の作戦行動をいくぶん減らしたとはいえ、ソ連の太平洋艦隊と空軍は、今日、過去のいかなる時代よりも強力でありま

第二に、挑発的とは、傍観者の目でみるときであり、一般的に傍観者の考え方にふさわしい言葉であります。我々が目に見えるレベルの行動を取っている時はいつでも、誰かしらが挑発的だとレッテルを貼るということは、誰もが認める事実でしょう。さらに、

会計報告

(89.9.3 ~ 10.10)

[収入]

○前月からの繰越	△ 60,449
経常繰越	189,551
借入金繰越	△250,000
○今月の収入	178,605
会費収入	97,500
内	
維持団体	0
維持個人	36,000
参加団体	0
参加個人	11,000
通信会員	50,500
カンパ収入	49,400
行動収入(PACEX)	22,485
資料収入	9,220
反核ホットライン収入	0

[支出]

●今月の支出	289,951
家賃(4月分)	50,000
水道光熱費	15,570
電話代	19,480
郵送費	52,983
文具代	55,569
印刷費	48,600
行動費(PACEX)	24,617
資料経費	0
反核ホットライン経費	20,412
郵便振替等手数料	2,720
●次月への繰越	△171,795
経常繰越	78,205
借入金繰越	△250,000

(三ページから)

「横須賀」

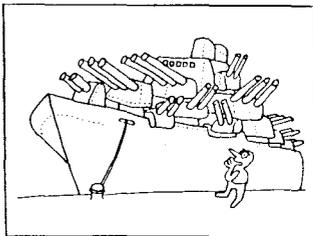
九月二十四日、ヨコスデモ。平和船団は、二人乗りシーカヤックで自衛隊棧橋をチェック。ロングビーチ入港時にはゴム・ボートとモーターボートが強風をうけて抗議行動。ミッドウエイ母港化から十六年にあたる十月五日には、県評、護憲反安保県民実行委員会などの主催でPACEX抗議行動が行われ、二千人が参加。

「京都」

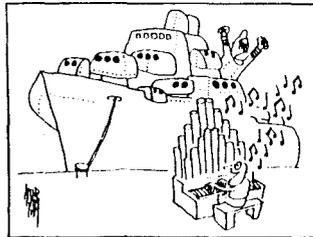
トマホーク阻止京都連絡会PACEX反対の連続街頭キャンペーンを展開。十月一日には、舞鶴の海上自衛隊総監に対してヘリコプター基地建設反対、PACEX反対の申し入れ。反戦データベース会議など六団体一人人は防衛庁長官あての抗議文を三日送付。同会議は、八日市中心部でピラマキを行った。

「呉」

ピースリンク広島・呉・岩国は九月中旬から三週間自衛隊を監視。九月二十二日に海上自衛隊呉地方総監部



PEACE DOSSIER (NZ)より



「佐世保」

と呉市長に演習参加中止を求める要請書を出し、十月八日には一〇〇人が集会とデモを行った。平和船団四隻は初めて自衛隊基地に登場。停泊中の護衛艦にタッチして帰ってきた。大衆的な抗議行動は行なわれていないが、佐世保軍問研の佐々木竹一さんはいつも、佐世保に向けて鋭い監視の目を基地に向けて続けている。

求ム! スタッフ、助っ人

●編集から印刷、発送まで「反トマ通信」はすべて手作りです。ミニコミ作りに興味あるひと、平和運動の新しい情報に触れてみたいひと、イラストやデザインをやってみようかなというひと、とにかく何かやりたい! と思っているあなた、いっしょにやりませんか?
●発送も手伝って下さい。毎月20日直後の日曜日、トマ喰い虫社の分室(東横線日吉駅下車044(63)5101)でやります。

次回の予定

11月26日(日) 午後2時から

月刊反トマホーク通信 第四十八号

一九八九年十月二十日発行(通巻四十九号)

*発行 トマホークの配備を許さな! 全国運動

〒一五〇 東京都渋谷区渋谷一五〇九

バル青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

〇四四(六三)五一〇一

FAX〇四四(六三)九九〇七

郵便振替 東京六一三六一四八

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)